

会 報

理 事 会 報 告

(平成23年度第2回)

日 時 平成23年10月14日
 場 所 日本教育会館
 出 欠 理事(30名中24名)出席:渡辺理事長, 森下・山岸・鈴木(公)常務理事, 鎌田, 藤兼, 武内, 尾形, 加藤, 佐々木, 中島, 橋本, 藤田, 石崎, 小川, 長谷川(好), 網谷, 倉澤, 鈴木(克), 重藤(会長), 富岡, 門田, 菅, 中西 計24名。
 長谷川(直)監事。
 欠席により委任状:巽, 長尾, 鈴木(栄), 一山, 田中(栄), 河野理事 計6名。高取毛監事, 大崎支部長。

報告事項

- I. 会務報告
- II. 委員会報告
- III. 支部活動状況報告
- IV. 第87回総会準備状況
- V. その他

議 案

- 第1号議案 委員の推薦について
- 第2号議案 その他

鈴木常務理事より会の成立が述べられ, 渡辺理事長の司会により開始。

報告事項

I. 会務報告(渡辺理事長)

会員数は3,321名と増加傾向にある。例年, 新入会員数は約80名であるが, 205名(2009年), 334名(2010年), 382名(2011年)と増加傾向にある。40歳以下の会員数860名と平均年齢も低下した。

一般社団法人法により議事録の作成が必要である。定款第36条で「理事会に出席した理事長及び監事が署名又は記名押印しなければならない」と規定されているため, 長谷川直樹監事を議事録署名人に願う。

(中島第86回総会会長) 第86回総会では, 初めて生涯教育セミナーを実施した。総会参加者数約1,450名。総会費の余剰金は, 全額を学会本部事務局へ返金した。

II. 委員会報告

1. 編集委員会(山岸委員長)

①平成23年1月から9月までの間に原著数16編。投稿原稿も多く, 学会誌は順調に発行している。②毎年12月号は総会特集号である。原稿提出の協力をお願いしたい。

2. 学会賞選考委員会(重藤会長)

本年は今村賞の応募3編, 研究奨励賞候補7編。12月に選考する。

3. 治療委員会(重藤委員長)

レボフロキサシンの適用承認に向け, 使用実態調査中である。今後結果を分析する。

4. 社会保険委員会(中島委員長)

平成24年度診療報酬改定に向けて, 内保連を通し厚生労働省に要望書を提出した。医療技術評価として, ①結核菌群リファンピシン同定検査の保険点数額, ②結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン- γ と結核菌群核酸同定検査の同時算定, の2項目である。

5. 教育・用語委員会(長谷川好規委員長)

①「結核診療ガイドライン」普及のための教育講演は, 各支部とも順調に開催されている。②「結核症の基礎知識」: 完成後, WEB上へ載せたい。③「結核診療ガイドライン」改訂: 理事長と相談し, 診療ガイドライン作成委員会において作成することにした。

6. 予防委員会(加藤委員長)

「さらに積極的な化学予防の実施について」: 平成17年版の改訂を治療委員会と合同で行う。リウマチ学会は既に単独で公表しているため, 今回は単独で行う。

7. 非結核性抗酸菌症対策委員会(鈴木克洋委員長)

「肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解—2012年改訂」を公表する(Vol.87, No.2掲載)。

8. 抗酸菌検査法検討委員会(富岡委員長)

日本臨床検査医学会用語委員会へ標準検査法の標準用語について回答を提出した。抗酸菌検査施設の機能及び精度保証に関するアンケート調査を実施した。

9. 将来計画委員会(森下委員長)

①定款に整合するように各種規則・細則の整備を行う。②選挙細則の改訂を行う。③地方会の会計を統合する。本学会は日本呼吸器学会と合同で地方会を開催している。税務署の指導に従い, 地方会経費の領収書を学会事務局へ提出する必要があるが, 本学会も日本呼吸器学会

も同様の義務がある。領収書は1枚しかないので、両学会の事務局に提出することはできない。各支部の運営方法を検討していく。

10. 保健・看護委員会（石崎委員長）

若手医師・医療従事者を対象に資格のようなものを作りたい。ワーキンググループを立ち上げる。地域社会への社会貢献として教育活動を行っていききたい。

11. 国際交流委員会（門田委員長）

外国人結核アンケートの結果を、前回の理事会・代議員会で承認してもらった。委員会報告として結核誌へ掲載する。今後の活動については委員会で決めていく。

12. 認定制度委員会（藤田委員長）

①平成23年9月30日、第1回認定申請を締め切った。認定制度について問合せが多いため、Q&Aをホームページに載せた。今後の課題・検討事項をメール会議していく。書類チェックにより認定手続を進める。②第144回ICD講習会（第87回総会開催時）の案内を、学会誌・ホームページに掲載した。③結核講習会（日本呼吸器病学会との合同企画）の演者を調整する。

13. ホームページ委員会（小川委員長）

①診療関係者の相談窓口をホームページに設置し、質問・回答も順次、掲載している。②サーバー使用料：月5万円経費削減した。③「結核」誌第1巻～83巻のオープン化：(独)科学技術振興機構 J-Stageへリンクした。④法人化により定款を掲載した。⑤今後の検討課題：「結核の基礎知識」掲載、理事専用サイト・代議員専用サイトの作成の2点について検討する。認定医リスト、利益相反の掲載について、各委員会と相談する。日本呼吸器学会英文誌はWEB上に載せており、会誌作成をしていない。「結核」誌は最新号まで学会ホームページに掲載している。結核誌作成は完全な赤字であることを他団体から指摘されている。今までどおり全会員に「結核」誌を送本していくべきか、紙ベースの会誌が必要のない会員を募るべきか、編集委員会等で検討していただきたい。

（山岸編集委員長）日本呼吸器学会では、WEB会員には会費を安くしているが、WEB会員の割合は少ないと聞いている。常務理事会で検討したい。

Ⅲ. 支部活動状況報告

北海道支部

第62回：平成23年9月17日 森雅樹会長（札幌厚生病院）。第63回：平成24年2月25日 稲葉裕二会長（旭川厚生病院）。いずれも日本呼吸器学会との合同開催。

東北支部（渡辺支部長）

第123回：平成23年9月10日 武内健一会長（岩手県立中央病院）。第124回：平成24年3月3日 武内健一会長（岩手県立中央病院）。いずれも日本呼吸器学会との合同開催。

関東支部（山岸支部長）

第160回：平成23年9月17日 鈴木公典会長（ちば県民保健予防財団）。第161回：平成24年2月18日 尾形英雄会長（結核予防会複十字病院）。第162回：平成24年9月15日 小倉高志会長（神奈川県立循環器呼吸器病センター）。第163回：平成25年2月23日 二木芳人会長（昭和大学医学部）。いずれも日本呼吸器学会と合同開催。

北陸支部（石崎支部長）

第79回：平成23年11月26・27日 泉三郎会長（富山県立中央病院）。第80回：平成24年5月19・29日 小川晴彦会長（済生会金沢病院）。日本呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、サルコイドーシス学会と合同で開催。

東海支部（長谷川支部長）

第118回：平成23年10月29・30日 橋爪一光会長（浜松医療センター）。第119回：平成24年6月23・24日 齋藤博会長（愛知県がんセンター愛知病院）。第120回：平成24年11月10・11日 大野康会長（岐阜大学）。日本呼吸器学会と合同開催。

近畿支部（倉澤支部長）

夏の支部学会は結核病学会、冬は呼吸器学会が主催し、年2回開催している。第108回：平成23年12月3日 平田一人会長（大阪市立大学大学院）。第109回：平成24年6月30日 一山智会長（京都大学大学院）。第110回：平成24年12月15日 西村善博会長（神戸大学大学院）。第111回：平成25年 岡田全司会長（NHO近畿中央胸部疾患センター）。会則の改訂を行い、支部学会会費を集めることにした。日本呼吸器学会近畿支部と合同で、常設事務局を民間会社へ委託した。

中国四国支部（富岡支部長）

第61回：平成23年1月22日 森高智典会長（愛媛県立中央病院）。第62回：平成24年3月3日 矢野修一会長（NHO松江医療センター）。第5回中国四国支部会研究会：平成23年9月17日 特別講演 沖本二郎先生（川崎医科大学）。日本呼吸器内視鏡学会と合同開催。

九州支部（中西支部長）

第67回：平成23年11月18・19日 渡辺憲太郎会長（福岡大学病院）、教育講演 鈴木公典先生。第68回：平成24年6月30日 古藤洋会長（九州中央病院）。第69回：平成24年11月16・17日 迎寛会長（産業医科大学医学部）。第70回：平成25年6月29日 松瀬厚人会長（長崎大学医学部第二内科）日本呼吸器学会と合同開催。

Ⅳ. 第87回日本結核病学会総会準備状況（重藤会長）

（本誌前付頁参照）

Ⅴ. その他（渡辺理事長）

①未承認薬・適応外薬の要望について：ストレプトマイシンの要望書を厚生労働省へ提出し、現在、使用実態

調査をしている。カナマイシンは、販社の明治製菓ファルマによると、まだエビデンスに乏しいため、ストレプトマイシンのみ申請した。

〔経緯〕平成21年度から厚生労働省が開始した「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討」事業において、日本呼吸器学会と本会との第1回目の共同要望として平成21年8月、レボフロキサシン（LVFX）の多剤耐性結核菌に対する適応承認、並びにリファンピシン（RFP）とエタンブトール（EB）の肺非結核性抗酸菌（NTM）症に対する適応承認を学術団体の立場から要請した。また、2011年8月、ストレプトマイシン（SM）のNTM症に対する適応承認を第2回目の共同要望とした。

〔その後の状況〕RFPとEBは、2010年11月29日開催の薬事・食品衛生審議会第二部会において公知申請の事前評価が行われ、公知申請を行っても差し支えないと判断され、即日保険適応となった。その後、販社（2社）が適応追加申請を公知申請で行い、審査を経て2011年5月20日に正式に承認された。LVFXに関しては、若干の臨床成績の追加集積が必要であると判断され、当局および販社からの協力依頼があり、2つの調査（結核病学会が行っているLVFXの後ろ向き有効性・安全性調査〔使用実態調査：注射剤・後発品を含み、1,000例以上を集積し終了〕、日本結核病学会治療委員会を中心として行っているLVFX〔クラビット錠のみ〕の前向き有効性・安全性調査）が行われている。成績がまとまり次第当局へ報告書が提出され、適応追加承認に向けて一歩前

進するものとする。

②利益相反への取り組み：他学会に比べ、取り組みが遅れている。中西洋一氏をワーキンググループ座長とし、取り組む。

③「結核診療ガイドライン」改訂：日本呼吸器学会との合同改訂を検討したが、利益相反の面で本学会とかけ離れているため、単独改訂を行う。山岸文雄氏を委員長とし、診療ガイドライン作成委員会が行う。

議 案

第1号議案 委員の推薦について

第88回総会プログラム委員

支部推薦：菊地利明氏（東北支部）、山崎利雄氏（関東支部）、今泉和良氏（東海支部）、松本智成氏（近畿支部）、藤田昌樹氏（九州支部）。

会長推薦：阿部聖裕氏、猪狩英俊氏、加藤誠也氏、桑原克弘氏、永田容子氏。

委員長推薦委員

編集委員会：菊池功次氏、森 亨氏、山崎利雄氏。社会保険委員会：飛世克之氏、林清二氏。予防委員会：（支部推薦）稲垣智一氏。非結核性抗酸菌症検討委員会：倉島篤行氏、小川賢二氏。（承認された。）

第2号議案 その他

特記事項なし。

以上で理事会は終了。